

白癬症（水虫）

水虫は聞き慣れた名称ですが、水虫のことを良く理解されていない方も多いようです。水虫の原因菌は白癬菌というカビの一種です。この白癬菌が、皮膚や爪に侵入して私達を悩ますのです。水虫は足に好発します。特に、足のゆびの間によく発症します。足以外にも手や顔、頭、など体のどの部分にも発症します。

皮膚の水虫は外用薬で軽快しますが、水虫菌が爪の中に侵入してしまうと外用薬のみではなかなか良くなりません。爪の中に白癬菌が侵入した状態を爪白癬と呼んでいます。爪白癬は日本人の10人に一人、60歳以上の方では4人に一人が爪の水虫であると言われていています。爪の水虫とは気付かず放置されていることが多く、他の疾患で皮膚科を受診された時に初めて爪の水虫を指摘されることもよくあります。最近、爪の水虫に対する関心も高まり、受診率は以前より向上しています。

爪の水虫はどういった症状なのでしょう。まず外見上の変化が見られます。爪が白く濁ったようになり、更に進行すると爪が分厚くなります。爪が白く濁るのは、最初は、爪の先端部から濁るのが一般的です。白く濁ることが多いのですが、黄色く濁る場合や、黒く濁る場合もあります。このような外見上の問題から、恥かしくて、素足になれない、さらには旅行に行くのに気が引けるといった訴えもよく聞かれます。爪水虫になると爪自体がもろくなり剥がれ落ちてしまい、その爪が周囲への感染源となれば、本人だけの問題ではなくなりますので、さらに厄介です。自覚症状は、爪水虫自体は、痛み、かゆみは生じませんが、爪が分厚くなって靴がはきにくくなったり、分厚くなった爪が周囲の皮膚を圧迫すると痛みを伴います。爪の周囲に生じた皮膚の水虫はかゆみを生じることがあります。

爪水虫の治療には飲み薬が必要です。以前は爪の水虫にはいい治療薬がありませんでしたが、最近の有効性の高い薬が開発され、爪の水虫は治療可能となっています。ただし、飲み合わせなどいくつかの注意点がありますので、爪水虫の治療を希望される方は皮膚科でご相談ください。たかが水虫と言ってもなかなか治らずあきらめている方は多いと思います。水虫をそのままにしておくと、家族の方にうつしたりしますし、糖尿病の方は、水虫の部分から、細菌が侵入して足が腫れあがったりすることもありますので、入浴時に足を見るようにしてください。もし、何らかの異常に気付いたら皮膚科を受診してください。水虫の治療も早期発見、早期治療が肝心です。

（文責：森田秀樹）